

(4) 実践内容

①問題をつかむ――地域の抱える森林の問題に目を向ける子どもたち

城南学区は新興の住宅地に位置している。よって、周囲にこれといった森林も存在せず、子どもたちは森林とかかわらない生活を送っている。このような子どもたちが、森林に興味をもち、目を向けていけるように、単元の導入は岡崎市で取り組んでいるリバーヘッド大作戦という森林ボランティア活動を取り上げ、その取り組みを知ることから授業を開始した。リバーヘッド大作戦は、岡崎の水源になっている乙川の upstream にある額田の山の森林の保全活動をしている取り組みである。第1時は、ポスターからその活動内容をとらえ、なぜそのような活動をしているか子どもたちに考えさせた。

第2時は、その副会長である高木田さんに登場していただき、現在の岡崎市の森林の状況を現地の山の中で説明してもらったビデオを視聴した。ビデオを見た後、子どもたちにビデオを見て気づいたことを発表させ、高木田さんが何度も述べていた「手入れされていない森林」と「手入れされている元気な森林」を視点にして、それぞれの森林の状況を黒板で整理した。「岡崎の森林の状況がすごくあぶないことが分かった」(A男)や「手入れされないと、(中略)岡崎市の人たちもこまる」(B子)など、まったく森林の状況について知らなかった子どもたちも、現在の岡崎市の森林の状況に驚き、森林の問題に目を向けていくようになった。特に、リバーヘッド大作戦に取り組んでいる高木田さんが荒れた森林の前で語ってくれたことは、子どもたちの心に響き、地元の問題として意識することにつながっていったようだ。

②問題をさぐる1――森林の問題にかかわる疑問を調べる子どもたち

子どもたちは高木田さんの話から、岡崎市の森林が荒廃している事実を知ることができた。右の資料3は、子どもたちが抱いた疑問である。まずは、その素直な疑問を大切に、それらを調べていくことから森林に関する基本的な知識を獲得していこうと考えた。森林荒廃の原因や森林の働きは様々なことが有機的に関連して、その内容も総合的で難しいものが多い。そこで、補助資料を作成したり、市の自作ビデオを活用したりして調べ学習を進めた。特に、岡崎市の森林の問題は決してこの地域に見られる特別なものではなく、日本の森林の状況及びその産業が抱える問題と同じである。そのような点にも気づくことができるように、岡崎市や日本の森林面積の統計資料なども取り入れた補助資料を作成し、子どもたちへの支援を図っていった。

森林荒廃の原因や森林の働きが分かってくると、子どもたちも森林の大切さを感じるようになってきた。B子のように森林の働きから自分の生活とのかかわりを考え、岡崎の森林を何とかしなければという思いを

【資料1 第2時のA男の授業感想】  
岡崎の森林のじょうたいがすごくあぶないことが分かった。細い木は育ってなくて山はだが見え、手入れされていないことが、自然をけがしていることが分かった。

【資料2 第2時のB子の授業感想】  
 手入れされていない森林が多くなっていることを初めて知りました。手入れされないと、動物たちもこまるし、岡崎市の人たちもこまるし、土砂くずれもあるからリバーヘッド大作戦をもっとしてほしいと思いました。

【資料3 岡崎の森林の状況を知って、子どもたちが疑問に思ったこと】

<森林の手入れの方法>

- ・森林の手入れはどうやっているのか。(A男)
- ・手入れしないと森林はどうなるのか。

<森林が荒廃してきた原因>

- ・なぜ手入れしていない、荒れた森林が多くなっているのか。
- ・岡崎市の森林は手入れされていない森林ばかりなのか。

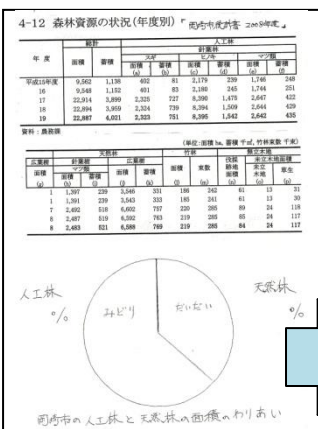
<森林の必要性・働き>

- ・どうして森林は手入れしないといけないのか。
- ・森林と川とどのように関係しているのか。
- ・森林は人間のために、どのような働きをしているのか。

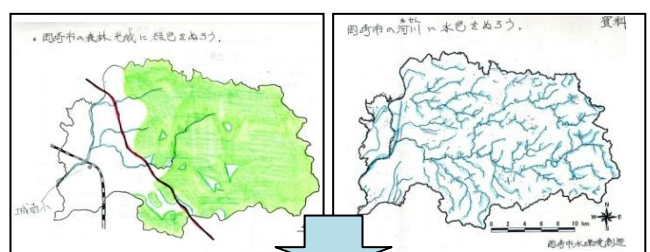
<森林保全の取り組み>

- ・リバーヘッド大作戦はどうやってうまれたのか、どんなことをしているのか。(B子)
- ・高木田さんがリバーヘッド大作戦を始めた理由は何か。

【資料4 第4時の補助資料】



【資料5 第6時の補助資料】



【資料6 第4時のA男の授業感想】  
岡崎の森林は59%が人工林だと知ってびっくりしました。そして、人工林は長い年月をかけて作ることにびっくりしました。それにスギ80年、ヒノキ65年もかかる。今の森林があれていることを知り、もっと森林を大切にしなければと思いました。

【資料7 第6時のB子の授業感想】  
 森林は豊かな水や空気を作っているからとても大切だと思いました。今まで自分の生活とは関係ないと思っていたけど、岡崎の森林は私たちの水を作っているから、元気な森林にしていかなければいけない (以下略)

抱く子も出てきた。しかし、まだまだ切実感に欠けているように思えたので、「岡崎の森林は、このままでよいのか話し合おう」を課題に、自分たちの考えを話し合わせることにした。

多くの子どもたちが、B子と同じような考えを主張した。森林の働きによる人間の生活への影響を根拠に、このままではいけないというものである。しかし、その一方で、現状維持を求める意見も出た。現状維持を求める子たちは、C14の「このままではいけないと思うけど」の意見のように、森林の大切さは理解しつつも自分たちには何もできないからしょうがないというような意見を多くの子が述べていた。話し合いの中でも、森林を守っていくためにはどうしていったらよいか、自分たちにはどんなことができるかが、はっきりしない問題として浮き彫りとなった。話し合いを通じて、改めて森林の大切さを理解すると同時に、B子の授業感想にもあるように森林保全の取り組みに目を向け、強い問題意識となっていった。

### ③問題をさぐる2ー森林保全の取り組みについて調べる子どもたち

子どもたちのこのような問題意識をとらえ、まずは岡崎市のおおだの森で保護事業に取り組んでいる浅井さんに来校していただき、森林を守る取り組みについて話を聞いた。さらに、岡崎森林組合や森の総合駅にも見学に出かけた。岡崎市が森林を守るためにどんな取り組みをしているかを共通課題として、実際に森林の保全活動に従事している人々から、その仕事内容や森林を守る取り組みについて聞き取り調査を行った。そして、ボランティアとしての浅井さんの取り組み、森林組合の取り組み、岡崎市の取り組みでそれぞれグループを作り、それぞれの森林保全の取り組みについてその活動の工夫や苦労、従事している人たちの願いを視点に方眼画用紙にまとめることとした。

子どもたちは、森林の保全活動に従事している人たちへの聞き取り調査から、間引きや間伐などの手入れの苦労や経済的な問題、ボランティア活動のたいへんさなど、森林を守っていくことの難しさを改めて実感することができた。しかし、おおだの森の浅井さんも森林組合の平松さんもその

#### 【資料8 第7時おかざき森林会議1の授業記録】

C12 (B子) 私はこのままではいけないと思います。その理由は、このままでは森林のすばらしい働きがダメになってしまうからです。私たちが安全で快適に暮らしているのは、岡崎の森林があるおかげだから、このままではいけないと思います。

C13 ぼくはR君が言っていたように、今のままキープすればいいと思う。ぼくたちができることはないし、しょうがないと思う。

T しょうがないか。そうか、ぼくたちができることは何もないのかな。

C14 このままではいけないと思うけど、今のままでも生活できている。

C15 H君に反対で、岡崎の森林は土砂崩れをしないようにしたり、川の水を作ったりしてるから、やっぱりみんなで守っていかないといけないと思う。

#### 【資料9 第7時のB子の授業感想】

今日の話し合いは大人の人たちも思っていることだと思います。私はこの話し合いをして、このままでしょうがないと決めつけないで、どんな小さなことでも森林を守る活動をした方がよいと思いました。

#### 【資料10 第9時のA男の授業感想】

平松さんたちは自然が好きな人たちにめぐまれて、今は森林が手入れできていない所が増えているけれど、将来役立つようにと願って働いていることが分かりました。

森林の仕事はたいへんだけど、それを楽しくしてすぐに終わっちゃうと言っていた人がいたので、その人は森の仕事が好きなんだなと思いました。



写真1 ボランティア活動で取り組む浅井さんの授業の様子



写真2 岡崎森林組合の見学の様子会長の平松さん



写真3 額田町にある岡崎市の森の総合駅の見学の様子

#### 【資料11 子どもたちのまとめー浅井さんの願い】

- ・ボランティアは森林や自然が好きの人が集まってがんばっている。
- ・30年から60年先に春は桜、秋はもみじでいっぱいのおおだの森になってほしい。
- ・たくさんの方が森林に関心をもって大切にし、おおだの森にも遊びに来てほしい。

#### 【資料12 A男の班のまとめー森林組合の荒れた森林対策】

- ・森林に日光があたるように、下草がりや間伐をして整備している。
- ・荒れた森林の手入れはとてつもない。大型機械を使って効率的にできるように工夫している。
- ・林業では働く人は全国的に減少しているが、岡崎は自然が好きな人に恵まれている。町が近いので働きたいと来る人が多い。

#### 【資料13 B子の班のまとめー森の総合駅の取り組み】

- ・岡崎市では森の駅を市内に作って自然や森の大切さをみんなによびかけている。
- ・森林組合や炭焼きの会、山留舞会でのボランティア団体に協力して、リバーヘッド大作戦を計画している。
- ・リバーヘッド大作戦でみんなに手伝ってもらうためによびかける。

取り組みのたいへんさ以上に、すばらしさや楽しさを語ってくれた。子どもたちはその人たちの思いを共感的に受けとめながら、森林の保全活動に対してその必要性やそれぞれの団体が工夫して取り組んでいること、さらにリバーヘッド大作戦のように様々な団体が連携して取り組んでいることが分かってきた。

#### ④学びをふかめる――森林保全のあり方について話し合う子どもたち

それぞれの団体の取り組みの工夫が分かってくると、多くの子どもたちは森林の保全活動に安心感を抱くようになってきた。そこで、岡崎市の森林保全に対する取り組みは十分かどうか話し合わせることで共有化を図っていきたいと考えた。

話し合いは、それぞれの団体の取り組みの工夫（C9, 16）や努力していること（C15）を根拠に「十分である」の立場で発言する子が多かった。また、「不十分である」の立場の子たちは、人工林の現実的対策（C10, 11）や林業の抱える労働者不足の問題（C17）などを根拠に発言をした。「森林の手入れにはお金がかかる」や「ボランティアに本当に参加するのか」など、森林の保全活動のもつ本質的な問題について、互いの立場で自分の考えを述べて話し合うことができた。B子の授業感想からも、友達の考えを聞くことでボランティア活動だけではない保全活動の必要性に目を向けるようになってきたことが分かる。子どもたちは、森林保全に対する取り組みについて様々な取り組みがある一方で、その現実的な対策としてどのような保全活動をしていくべきか考え始めた。

話し合いでは、「ボランティア活動」と「あいち森と緑づくり税」の実行力と必要性が、意見がぶつかる視点となった。特に「あいち森と緑づくり税」については、C25の意見のように従事者の2人がその税金に大きな期待をよせていたのだが、それについて上手に説明できる子がいなかったのので、その価値が伝わらない漠然とした話し合いで終わってしまっていた。そこで、それらをキーワードに「岡崎市は「あいち森と緑づくり税」と「森林ボランティア」のどちらを重視してこれから取り組んでいくべきか」という課題で、もう一度これからの岡崎市の森林保全のあり方についてかかわり合いの場をもつことにした。子どもたちはもう一度調べ学習を行い、どちらかの立場に決めて自分の考えを作るようにした。子どもたちの中には「あいち森と緑づくり税」について役所の人に電話して質問する子もいた。B子は前回の話し合いからボランティア活動に疑問を感じ、初めは「あいち森と緑づくり税」重視の立場で悩みながら自分の考えを作った。しかし、ボランティア活動に取り組む人や団体が増加しているという資料を見つけ、それにとっても満足し、最後は「森林ボランティア」重視の立場で自分の考えを作り直した。

次頁の資料16の授業記録からも、「森林ボランティア」の立場の子たちは、自らの手で取り組むことができる効力感（C41）やいろいろな人が協力してできるネットワークによる実行力（C23, 42）を根拠に、森林保全をしていくことの大切さを訴えた。それに対して、「あいち森と緑づくり税」の立場の子たちは、お金のかかる森林の手入れの確実な実行力（C38, 39）や税金の計画性・公平性（C20, 21, 37）などを根拠にして自分の考えを述べていた。子どもたちは、実際の対策としてその実行力や有効性について自分たちの考えを主張し合い、その可能性について互いの考えにかかわりながら話し合いをした。C22やC23は、相手の立場をよく聞いて、相手を納得させようとより具体的な事実を根拠に反対意見を述べている。また、C41のように、税金は計画性があるという相手の考えを認めながら、それでもボランティア活動は将来的には可能性があるとして自分の考えを再構成して発言することができた子もいた。

B子は「話し合いをして、お金による協力も元気な森林にするためには重視しなければいけないのかな」と授業感想に書いた。B子のような「森林ボランティア」重視の立場の子たちは、森林を未来社会のために

#### 【資料14 第10時おかざき森林会議2の授業記録】

C9 森林組合の平松さんは森林を守るためにいろいろと森の手入れをしてるから十分だと思います。

C10 (A男) C9の意見に反対で、森林組合の手入れと言っても岡崎の森林のうちの約60%近くが人工林で、その中でも手入れされてない森林が増えているから不十分だと思います。

C11 C君につけたしで、ぼくも十分でないと思います。森林の手入れはお金がかかるし、平松さんもすべて行くには人とお金が必要と言っていたから。

(中略)

C15 (B子) リバーヘッド大作戦や額田炭焼きの会など、たくさん取り組みをしてるので、これからたくさんの人とやっていけば効果があると思う。

C16 K君(C11)が言ったことだけど、平松さんは確か岡崎は町が近いから人手不足にはならないと言っていた。

C17 十分である子たちに質問で、リバーヘッドはボランティアだから、今不況だから現実的に考えて本当にボランティアにみんなが参加するんですか。

C18 浅井さんたちはとてもがんばっているから、みんな参加すると思う。

C 「やらない」「参加する」とそ々でつぶやく。

(中略)

C25 浅井さんも平松さんも、去年から「森とみどり税」とかいう税金を集めることが始まったから、森の手入れもよくなってくると言っていたから、だから大丈夫だと思います。

#### 【資料15 第10時のB子の授業感想】

十分でない人の意見を聞いてとてもまよいました。リバーヘッド大作戦はこれからもやっていった方がいいと思うけど、私もボランティアだけで、本当にだいじょうか心配になりました。この話し合いをして、たしかにあれた森林をなおしたいけど、人ができないのでやっぱりよびかけてみんなで行った方がいいのかなと思いました。

きちんと守っていくには、税金のような公共政策の必要性が見えてくるようになり、子どもなりに視野を広げて自分の考えを深めていくことができた。また、話し合いの中で、「次の世代に残す」(C37)という言葉が出された。その言葉を授業の中で取り上げたことで、子どもたちは、改めて森林を次の世代にまで守り、残していくことの価値を考えたようだ。A男も授業感想に「次の世代に残すというのはむずかしいけれど、両方ともみんなで協力していけばいいんじゃないかな」と、「あいち森と緑づくり税」だけでなく「森林ボランティア」の有効性にも目を向け、自分の考えを問い直しながら考えを深めていくことができた。

⑤学びをいかす——自分たちができることを考える子どもたち

おかざき森林会議3の後、子どもたちは自分たちも森林を守るために何かしたいと考えるようになっていた。今まで学習したことから、自分たちのできることを考えた。「森林ボランティアに参加する」「あいち森と緑づくり税について大人の人にきちんと知ってもらおう」「森林の大切さをたくさんの人に伝える」など、できることなどないと考えていた子どもたちも、様々な自分たちができることを考えられるようになった。子どもたちの多くが、たくさんの人に森林の大切さを知ってもらいたいと考えていたので、最後は学習してきたことをパンフレットにしてまとめ、地域に掲示して発信することにした。

B子はパンフレットの中に、初めのこだわりであったリバーヘッド大作戦についてボランティア団体や森林組合、岡崎市、そして市民もいっしょに連携している図でまとめ、その取り組みを紹介した。B子なりの森林保全の取り組みの関係図であり、B子の認識の広がりが見てとれる。

完成したパンフレットは自分たちで交渉して、地域の様々な施設で掲示してもらおうようにした。自分たちの住んでいるマンションの掲示板や学区の市民ホーム、子どもの家など、子どもたちは人が目にしてくれる場所を考えた。B子は森の総合駅にお願いに行き、パンフレットを掲示した。手渡す時には、わざわざ浅井さんも見届けに来てくれた。B子も「総合駅の係の人や浅井さんがとても喜んで」と、とても満足した感想を書いている。さらに、「これを読んでたくさんの人に岡崎の森林を守っていくことの大切さを知ってもらいたいな」と大きな期待も抱いている。自分たちでできることを行ったことから森林保全に対する自分たちの存在感を感じ、大きな成就感を味わうことができたようだ。さらに、「これからも岡崎

【資料16 第12時おかざき森林会議3の授業記録】

C20 税派 森林を育てるにはお金がかかる。平松さんや浅井さんが言っていたように、愛知県に住む人たちがみんなでお金を出すべきだ。

C21 税派 約100㎡四方の森林を手入れするのに20万円ほどかかるから、お金が必要だからです。

C22 税派 C12(B子)に反対で森林ボランティアの数が増えていると言ったけど、労働者じゃないと森林の整備はできないと思います。

C23 ボ派 C18やC22が言った人が集まるのかに反対で、リバーヘッドのポスターを見るとこの部分に額田林業クラブを始めたくさんの人が活動しているので、ボランティアでもこのようにちゃんと活動していればよりうまくいくと思います。

(中略)

C37 税派 理由は、岡崎は森林の59%が人工林で、人工林は手入れが必要なのでお金が必要だということと、資料ではもっと森林を豊かにして次の世代に残したいと書いてあるからです。

T いいことを言ってくれたね。次の世代に残すためには、荒れた森林を手入れしないといけないね。そのためには、どちらがしっかり整備できるのかな。

C38 税のがしっかりできる。税金で集めれば、仕事として平日もしっかりできると思う。

C39 (A男) 税金ならボランティアよりも、確実に実行できる。

C40 私は税のが次の世代に残していけるとと思います。人がたくさんいてもお金がないと何もできないから。

C41 確かに税はお金がたくさん集まるけど、ボランティア活動は少しづつだけ人が増えているから、大勢で短時間でやればすぐに終わる。

C42 U君(C41)につけたして、次の世代に残すにはやっぱり森林ボランティアのがいいと思います。森林ボランティアはいろんな人たちが集まって協力をしながら一個一個やっていけば最後には大きなものになるから。

【資料17 第12時のA男の授業感想】

緊張したけど、うまく話せたのでよかったです。次の世代に残すというのはむずかしいけれど、両方ともみんなで協力していけばいいんじゃないかと思いました。あいち森と緑づくり税は人手不足をおぎなえるけれど、Y君(C42)の意見を聞いて、森林ボランティアもみんなで森をよくしていくのには大事なことだと思いました。

【資料18 第12時のB子の授業感想】

浅井さんの最後の話を聞いて、森林への意識はボランティアの方がいいと思うということを聞いて、たしかにと思いました。話し合いをして、お金による協力も元気な森にするためには重視しなければいけないのかなと思いました。

【資料19 自分たちができること B子のパンフレットより】

のあれた森林が少しでもよくなるように、私もお父さんといっしょにリバーヘッド大作戦に参加して間ばつや炭をまくことをやっていきたい」と、B子自身、岡崎の森林を何とかしようと主体的に森林の保全活動にかかわっていこうとする思いをもつことができた。子どもたちは、社会の一員としての意識をもって、森林を守っていこうとより強く地域社会に働きかけていこうと考えるようになった。

**【資料 20 第 14 時の B 子の授業感想】**  
 ポスターを総合駅に渡しに行った時、総合駅の係の人や浅井さんがとても喜んでいて、私はよかったな、これを読んでたくさんの人に岡崎の森林を守っていくことの大切さを知ってもらいたいと思いました。そして、これからも岡崎のあれた森林が少しでもよくなるように、私もお父さんといっしょにリバーヘッド大作戦に参加して間ばつや炭をまくことをやっていきたいと思いました。

## 5 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

仮説Ⅰについて……手立て①リバーヘッド大作戦や荒れた森林について地元の人の話から授業を開始したことで、子どもたちは岡崎市の森林に目を向けるようになり、その保全活動について問題意識を高めていくことができた。また、手立て②子どもの意識をとらえてその保全活動に取り組む浅井さんや森林組合の人たちとかかわりながら単元の構成を図ったことは、子どもたちもその人たちの願いや思いを感じて、地元の森林の問題に対して切実感を抱いて問題意識を持続させ、意欲的に追究を進めていくことができた。

仮説Ⅱについて……手立て③森林保全の対策について、ボランティア活動の取り組みだけでなく、森林組合の取り組みや岡崎市の取り組みなど、様々な立場の取り組みについて調べたことで、子どもたちはそれぞれの人からその取り組みの工夫や思いを知ることができた。その人に直接聞き取り調査をしたり、現地取材したりしたことで実感を持った自己の考えの構築につながった。また、手立て④3度のおかざき森林会議を設定して岡崎市の森林保全についてそのあり方や対策について価値判断・意思決定をする話し合いをもったことは、かかわり合いを通じて幅広い森林保全に対する考え方ができるようになり、子どもたちの考えを深めていくことができた。

仮説Ⅲについて……手立て⑤単元の最後にパンフレットを作り、地域社会に提案・発信したことで、子どもたちは森林保全に対する自分たちの存在感と可能性を感じ、大きな成就感を味わうことができた。さらに、手立て⑥本単元では段階ごとに自己評価活動を行い、授業を進めてきた。右の資料 21 の自己評価の推移からも、初めはまったく関心がなかった A 男も、学習を通じて少しずつ森林への関心も高まり、最後には「森林はみんなで守っていかないとよくなっていかない」「ぼくも森林に役立つことをしてみたい」と、自分の学びの成長を感じながら森林保全の市民参加の必要性を考え、自分もいっしょに行動していきたいと考えるようになっていた。このような A 男の姿からも、社会の一員としての意識を抱き、地域社会に働きかけようとする思いを培うことができたのではないかと考える。

**【資料 21 A 男の自己評価の推移】**

段階	森林関心 (A男)	森林関心 学級平均	自分関係 (A男)	自分関係 学級平均
自己評価 1	1	2.4	1	2.1
自己評価 2	2	3.0	1	2.7
自己評価 3	3	3.5	2	3.2
自己評価 4	3	3.7	2	3.4
自己評価 5	4	3.7	3	3.5
自己評価 6	4	3.8	3	3.5

※森林関心……森林への思い  
 ※自分関係……森林と自分の生活との関係  
 (・4段階評価で、4がとても関心がある・生活と関係している)

**【資料 22 A 男の単元のまとめ (自己評価 6) の感想】**  
 最初、ぼくは森林なんて全然関心がありませんでした。この学習のおかげで、森林はいろいろな大切なはたらきがあることを知りました。そして、リバーヘッド大作戦などの森林を守る活動や、森林組合、森林ボランティアの人たちの努力も知り、森林を守る人たちはとても立派だと思いました。(中略) ぼくには何もできないと思っていたけど、みんなに森林の大切さを伝えるだけでもいいと分かりました。新聞を作ってマンションにはって、森林のことを教えてよかったです。森林はみんなで守っていかないとよくなっていかないから、少しでも活動に参加するなど、ぼくも森林に役立つことをしてみたいです。

### (2) 今後の課題

- ・子どもたちの生活や地域に根ざし、学びの質的な深まりを図る学習課題のあり方
- ・社会の一員としての思いをもち、地域社会への参画意識を促す単元の終末の工夫

## 6 おわりに

2年次の研究では、地元の社会問題を教材化してそれに取り組む様々な立場の人を取り上げたことや価値判断・意思決定を図る課題でかかわり合いの場を3度も組んだことは、子どもたちの学びを問ひ合う姿の創出に大きな効果があった。3年次は、よりよい社会の形成を目指して参画していく姿勢を培っていけるように学習課題や単元構想の工夫を図り、子どもたちの学びを深めていけるように研究を継続していきたい。